

## 第2章 チョコボラ・プロジェクトについて

### 第1節 潟上市チョコボラ・プロジェクト

#### 1 地域や公民館の現状

潟上市は、平成17年3月に3町が合併して誕生した。旧町時と比べて各公民館の職員数は減少傾向にあり、現在は天王、昭和、飯田川各公民館ともに館長、主事、社会教育指導員、事務補助員の4名で運営している。また、各地区がそれぞれに特色のある活動をしているが、最近では他地区の住民が他の地区の公民館講座に参加する等の交流が進んできている。

#### 2 潟上市チョコボラ・プロジェクト協議会

年度当初、飯田川公民館から、公民館を拠点としたボランティアの活性化について取り組みたいという相談があった。そこで市教委生涯学習課と協議し、1館にとどまらず全市的にこれを広げ、チョコボラ・プロジェクトとして取り組むことにした。

協議会の委員には公民館運営審議会、奨励員協議会、地域コーディネーター等公民館や地域をよく知る人材を委嘱し、プロジェクトの実施に向けて協議会を立ち上げた。

##### (1) 第1回協議会

①日 時 平成24年11月21日(水) 午前10時から午前11時30分

②会 場 飯田川庁舎 会議室

③出席者 生涯学習奨励員協議会会長、市校長会会長、各公民館運営審議会会長(3名)、市社会福祉協議会ボランティア担当者、各中学校区地域コーディネーター(3名)、市生涯学習課長、各公民館長(3名)、中央教育事務所主任社会教育主事、生涯学習センター職員(3名)

##### ④協議内容

○チョコボラ・プロジェクト事業について概要説明(県生涯学習センター)

○公民館や地域の現状について

- ・各地域の公運審会長や出席者からそれぞれの地域の特色や課題が述べられた。
- ・各地域それぞれの活動は盛んであるが、地域を越えた交流はあまり見られない。
- ・若い人たちを取り込んだ事業が行われるようになればよい。
- ・地域のボランティアを活用して公民館や地域を活性化していきたい。

○具体的取組について

事務局案を準備しつつ、協議会で出された意見や要望を生かした内容にすることを想定していたが、公民館を拠点としたボランティアの活性化や人材活用を期待する意見が出されたので、事務局案を提示した。既存のボランティア団体・自主学習グループ等の交流やボランティアに関心のある人への活動のきっかけづくりを意図したフォーラムの開催、フォーラムをきっかけとしボランティア活動へつなげるための研修会の開催を主な取組としていくことを確認した。

## (2) 第2回協議会

①日 時 平成25年1月23日(水) 午後3時30分から午後5時

②会 場 飯田川庁舎 会議室

③出席者 生涯学習奨励員協議会会長、市校長会会長、各公民館運営審議会会長(3名)、市社会福祉協議会ボランティア担当、各中学校区地域コーディネーター(3名)、市生涯学習課長、各公民館長(3名)、中央教育事務所主任社会教育主事、生涯学習センター職員(3名)

### ④協議内容

- ・フォーラム講師(あべ十全氏)の確定、活動紹介4団体の確定、参加者の申込み状況報告
- ・参加者をさらに増やす声かけについて、及び前日までと当日の役割についての協議
- ・その後に行う研修会についての協議…生涯学習とボランティアの関わりについて基礎的な理解を深めること、今までに活動している人たちから事例を紹介してもらうことを含め情報を共有する会にすること等を確認

## 3 実施事業

### (1) チョコボラ・フォーラムin潟上

①期 日 平成25年2月2日(土)

②会 場 潟上市飯田川公民館

③日程および内容



時 間	内 容
13:00～13:15	【開会行事】
13:15～14:15	【トークショー】「十全さんのボランティア回遊記」 バラエティタレント・ボランティアサークル「ビーンズ会」会長 あべ十全氏
15:00～15:20	休憩・【フリー交流】 ・各団体・グループや参加者の自由な交流
14:30～15:00	【バラエティトーク】 あべ十全氏の進行によるリレートーク・ボランティア実践者(4団体)による実践紹介 「昭とおはなしかい」「有志会」「秋田西高校JRC同好会」「追分西ぐみの会」
15:20～15:30	【閉会行事】

あべ十全氏のユーモアあふれる語り口と自らの実践に基づいた深みのある講話、そして、ふるさとへの思いあふれるギターの弾き語り、ボランティアを実践する人やグループ、関心を持って集まった参加者たち

に感動を与え、たいへん有意義なものとなった。

フリー交流では、紹介団体が作成したパネルの前に参加者が自由に集まり、質問したり説明を加えたりする光景が見られた。

また、バラエティークでは、十全さんと発表者がまるで打合せをしたかのような見事な掛け合いが展開され、会場からは笑い声やしきりに頷く姿が多く見られた。

最後に、今日のこの盛り上がり、潟上の公民館を拠点としたボランティアの活性化につなげていくことを確認して会を閉じた。



## (2) チョコボラ・研修会

①期 日 平成25年2月27日(水)

②会 場 潟上市昭和公民館

③日程および内容

時 間	内 容
13:00～13:05	【開 会】
13:05～14:05	【講 話】 「生涯学習とボランティア」 秋田大学教育文化学部准教授 原 義 彦 氏
14:15～15:25	【演 習】 ワークショップ 「私たちにできること」 秋田大学教育文化学部准教授 原 義 彦 氏
15:25～15:30	【閉会】



フォーラムで醸成したボランティア活動への気運の高まりを今後の活動につなげることを趣旨として、秋田大学教育文化学部・原義彦准教授を招き、公民館を拠点とした生涯学習とボランティアの関わりについて、基本的な理解を深める内容の研修を行った。

ボランティア活動が、地域の活性化のためになると同時にその活動をする事自体が自己開発につながる事、学んだことを地域で生かし、子どもたちに伝え、自身もまた地域から学ぶことで、地域の人と人のつながりが生まれ、地域が活性化していくことを教わった。また、演習では、自分たちがもっている強みと地域にとって必要とされることをうまく組み合わせることでやれることが見えてくる。また、そこでやれないこと、課題となることについては、自らの生涯学習として学ぶことで、自分にとっても地域にとっても有意義であることに気づききっかけとなる内容であった。

この研修会において学んだことを各地域の今後に生かすことを確認し合い、会を終えた。



#### 4 事業を振り返って

潟上市を見渡すと、多くの団体や個人が地域の活性化や自己研鑽の場として活動していることに気づかされる。特にそれぞれの団体が、「地域のために何かしなければ」と気負うのではなく、ごく自然な活動の中で行われている様子が見て取れた。

今回のフォーラムでバラエティークが自然に展開されたのは、十全さんの進行の妙もさることながら、各団体の実際に行っている活動が会員にとって主体的で無理のない形で続いているからであると思われる。また、研修会を行うことで、特に意識をせずに行われてきた生涯学習とボランティアの取組が関係づけられ、参加者の意識の向上が図られたことも意義深いことであった。

ただ、今回の取組が持続・発展していくためには、それぞれの公民館やそこに関わる住民が、今後についてどのように意識し取り組んでいくかにかかってくるであろう。

本報告書の次章で述べるが、研修や打合せの継続、スペースの確保や担当者の存在等が、ボランティアの活動に与える影響も大きいと考えられる。「新しい公共」の考えのもと、今後、公民館を拠点としたボランティア活動が根付き、職員と住民が協働する取組をさらに広げることによって地域の活性化が進んでいくことを期待したい。

## 第2節 これまでのチョコボラ・プロジェクトについて

当センターでは、平成22年度から3年間にわたり、「チョコボラ・プロジェクト」に取り組んできた。本節では、3年間のまとめとして、過去に取り組んだ5件のプロジェクトの概要と成果・現状などについてまとめる。

### 1 「チョコボラ・プロジェクト」とは

都市化、核家族化、高齢化、少子化による地域の教育力の低下など地域社会が抱える問題はますます増えているのに対し、地域の身近な社会教育施設でありこれらの問題に直接関わるべき公民館は、人員や予算の削減が続き、次第に力を弱めている傾向にある。そこで、地域住民の力(ボランティア)を活用して公民館を活性化することを目指し本プロジェクトを企画した。なお、開始にあたって親しみやすい事業にしたいと考え、「チョットこうみんかんでボランティア」を略した「チョコボラ・プロジェクト」と名付けた。

#### (1)「チョコボラ・プロジェクト」の進め方

本プロジェクトは、それぞれの地域・公民館にはそれぞれ異なった課題があるだろうと考え、実施内容は事前に決めず、地域の人たちとともにどうすればよいかを考えながら事業を行うことを基本方針とし、次のようなステップで事業を進めた。

##### ①プロジェクト協議会の立ち上げ

まず、地域・公民館の現状や課題を把握するため、プロジェクト協議会を立ち上げることにした。協議会には、公民館の利用者だけではなく、学校関係者や社会福祉協議会関係者など、普段あまり公民館と関係のない方も委員に委嘱し、外から見た課題も発見できるようにするとともに、公民館にとっては新たなネットワークができるように配慮した。

##### ②計画立案→実施

次に、協議会で明らかになった課題を解決するために、市町村教育委員会や公民館職員と生涯学習センターが力を合わせて実施事業計画を立て、実施することとした。当然、地域によって課題が異なり、実施する事業内容も異なってくるので、柔軟に最善の方法を考えることが重要である。解決のために何か別に事業を実施する場合もあれば、計画を立てる過程自体が目的になることもあった。

##### ③評価改善→次年度へ

「チョコボラ・プロジェクト」の最終目標は、知と行動が結びついた循環型社会を実現することである。一過性のものにせず次年度以降につながるように、事業結果をプロジェクト協議会に諮り、事業評価や改善の方策を探り、次年度につながるよう配慮した。

## 2 小坂地区チョコボラ・プロジェクト（平成22年度）

小坂地区では、担当職員から地理的に研修会に参加しづらい、ボランティア活動は盛んなものの横のつながりがないといった問題点が出された。そこで、協議会で協議の結果、研修会を開催してボランティアのレベルアップを図る、ボランティア登録制度を作ったり、ボランティア交流研修会を開催したりしてボランティアをつなげるといった事業を展開することとした。

### (1) 事業概要

#### ①チョコボラ登録制度

「ボランティアします！登録用紙」と「ボランティアお願い！登録用紙」を作成し、公民館、社会福祉協議会、各学校等に配布し、ボランティア登録を呼びかけ、公民館職員がコーディネーターとして情報をもつことができる仕組みを作った。

#### ②子育てボランティア・スキルアップ講座

時 間	内 容	講 師
9:40～10:40	【講義】 ボランティアにおける 児童との関わり方	県社会教育アドバイザー
10:50～12:00	【演習】 子どもが喜ぶ体験活動の実践から ○科学講座の実践	NPO法人あきた子どもネット (県立児童会館 指定管理受託者)

※県庁出前講座と県児童会館の移動児童館事業を活用し、他の市町村でも無料で開催できるプログラムとした。

#### ③学校支援ボランティア研修講座

時 間	内 容	講 師
15:35～16:30	【講義・演習】 子育てから考える学校支援のあり方①	弘前大学 生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎氏
16:30～17:30	【講義・演習】 子育てから考える学校支援のあり方② 〔車座になって、学校、ボランティア それぞれの立場から話し合い〕	

※今まで、学校支援ボランティア(及び関心のある住民)と教職員、公民館関係者が同じ立場で研修に参加し、話し合う機会はあまりなく、今回の講座では、それぞれ本音で話し合うことができ有益であった。



(車座になっての話し合い)

④小坂地区ボランティア交流研修会「あべ十全のボランティア de Show」

時 間	内 容	講 師
13:10～14:20	【トークショー】 十全のボランティア回遊記	マルチタレント ボランティアサークル 「ビーンズ会」会長 あべ十全氏
14:30～15:10	【リレートーク】 参加10団体の代表による活動紹介 〔1団体3分程度、壇上で十全氏とトーク〕	
15:10～15:20	【ポスターセッション】 各団体がそれぞれ模造紙1枚の活動紹介を展示し担当者が横で説明し、参加者が自由に交流する。	

※町内で活動している10団体が参加し、あべ氏の軽妙な進行で和やかな雰囲気の中で活動紹介が行われた。互いに今まで知らなかった他団体の情報を知り、横のつながりの強化になった。現在ボランティアを行っている人をもっと多く集め、ボランティアのマッチングまでできればもっと良かったと思う。



(2) 成果と課題・現状

小坂地区では、3回の研修講座とボランティア登録制度の創設をとおして、ボランティアの連携と支援のを目指した。登録制度については、まだ始めたばかりで情報もあまり集まっていないが、研修講座に関しては、それぞれ形式を工夫して開催し、それなりの効果と他への参考となる事例を示すことができた。また、地区協議会や交流研修会をとおして、公民館・学校・社会福祉協議会などのつながりを強化することもできた。

今回の小坂地区では、当初から公民館がボランティア・コーディネーターの役割を引き受ける意志を示しており、その担当者が、積極的にこのプロジェクトを活用して、ボランティアグループを組織していったことが印象的であった。「ボランティア活動は自発的活動であるから」といって“待ち”の姿勢でいるのではなく、公民館など行政側が積極的に“仕掛け”ていくことが必要であると強く感じた。

プロジェクト終了後も、小坂公民館では、積極的に地域人材やボランティアの活用に取り組み、平成23年度には、文部科学省から優良公民館表彰を受けている。

### 3 角館地区チョコボラ・プロジェクト（平成22年度）

角館公民館は、7公民館の館長を兼ね多忙な館長と事務職員1人という人員配置で、自主事業がない公民館であったため、公民館ボランティアを育成し公民館の機能を強化する方向で事業を進めた。

公民館サポーター養成講座を4日間(8コマ)開催した。公民館・ボランティアに関する基礎的な学習の他に、実際に子ども向けの事業を企画し運営にも携わって実践的な力をつけるような講座内容とした。また、その自主企画講座への取組の中でサポーター同士のつながりを強め、自主的で持続可能な会の運営が導き出されるようにした。

#### (1) 事業概要

##### ① 公民館サポーター養成講座「角館公民館でチョコボラ！」

##### 【第1日】

時間	学 習 内 容	講師・学習支援者	ねらい
9:00	開講式・オリエンテーション		講座の趣旨を理解する。
9:20 10:30	【講義】 生涯学習とボランティア ～知の循環型社会を目指して～	秋田大学教育文化学部 准教授 原 義彦 氏	生涯学習とボランティアに関する基礎知識を修得する。
10:50 12:00	【講義】 公民館ってなんだろう ～公民館の意義と役割～	秋田大学教育文化学部 准教授 原 義彦 氏	公民館についての基礎知識と現状について学ぶ。

##### 【第2日】

時間	学 習 内 容	講師・学習支援者	ねらい
9:00 10:20	【講義】 ボランティアコーディネーター の意義と役割	秋田市民活動センター 市民活動アドバイザー 吉田 理紗 氏	ボランティアコーディネーターについての基礎知識を学ぶ。
10:40 12:00	【講義・演習】 魅力的な講座の作りかた	生涯学習センター 社会教育主事	自主企画講座の企画立案の基礎知識について学ぶ。



【第3日】

時間	学 習 内 容	講師・学習支援者	ねらい
9:00  12:00	【演習】 自主企画講座を企画しよう①・②	ファシリテーター： 生涯学習センター 社会教育主事	実際に自分たちで講座を企画し、運営する計画を立案し、講座修了後に実施する。

【第4日】

時間	学 習 内 容	講師・学習支援者	ねらい
9:00  10:20	【講義】 公民館ボランティアの役割 ～秋田市東部公民館の実践から～	県社会教育委員連絡協議会 会長 大井 光弘 氏 (秋田市東部公民館運営協力員)	公民館サポーターの意義と役割について考える。
10:40  11:45	【討議】 これからの角公サポーター	ファシリテーター： 生涯学習センター 社会教育主事	持続可能な公民館サポーターの活動計画を立案する。
11:45 12:00	閉講式 あいさつ	生涯学習センター所長	

⑤受講者による自主企画講座の実施

「へえ～そうだったのか人物伝 一角館が生んだ天才絵師・小田野直武ー」

時 間	内 容	担当・支援者等	備 考
8:30～9:00	受付		
9:00～9:30	【オリエンテーション】 ○会長あいさつ ○日程説明 ○小田野直武について	歴史案内人組合	
9:30～11:30	【スタンプ・ラリー】 cp1生誕の地 (小田野直武宅跡) cp2五井家 (平賀源内との出会いの地) cp3情報センター (解体新書の写し) cp4松庵寺	サポーターの会 サポーターの会 歴史案内人組合 サポーターの会 サポーターの会	

	(石碑とお墓)		
	※会員が各cp(チェック・ポイント)に待機→指令書配布 高校生ボランティア(4名)が各班について見守り		
	【おしるこタイム】(帰着次第) ※感想記入	サポーターの会	
11:30~12:00	【終わりの会】 ○紙芝居 ○感想発表 ○認定書授与	サポーターの会	



(自主企画講座の様子)



(秋田魁新報 2011.1.25)

## (2) 成果と課題・現状

角館地区のプロジェクトは、公民館サポーターを育成するという方針で事業をスタートした。教育委員会の支援をうけ、町広報や生涯学習奨励員への呼びかけなどで受講者を募集したが数名の応募しかなかった。そのような中、今回の事業を知った町内在住の社会教育主事OBの方が知り合いに声をかけ受講者を集めてくださり、10名を越える参加者となった。この社会教育主事OBの方が、この後も中心になって活動しており、このように地域にいる社会教育主事OBの力を借りることもいろいろな事業を展開する上で有効ではないだろうか。

養成講座は、単なる座学にとどまらず、実践を伴うこと、さらにはその活動の中から受講者同士の交流が生まれ、それがサポーターの会といったものに発展することを願ってプログラムを作成した。講座にあたった講師のみなさんには、事前にこちらの趣旨を詳しく説明しておいたこともあり、受講者にやる気と方向性を与えてくれるお話を数多くしていただいた。そして、この講座の中での話し合いの中から生まれた自主企画講座が1月23日(日)に開催された。管内2小学校から6年生24名の参加があり、雪は多かったものの晴天に恵まれ成功裏に終わることができた。

今回のこの事業が、順調に推移した背景には、何より仙北市教育委員会の支援が大きかった。養成講座には、毎回市教委の生涯学習課長、担当職員、公民館長が参加してくれた。地域の人材を生かすことは当然大切であるが、サポーターはあくまでサポーターであり、支援される公民館側が支援の方向性や問題意識をきちんと認識し、職員もともに活動していくことを忘れてはこの種の事業は成り立っていないものであると感じた。

現在、養成講座修了者が中心となって、「公民館だより」の発行や、自主企画講座の開催などを継続している。

#### 4 山本公民館チョコボラ・プロジェクト（平成23年度）

山本公民館は、多くの団体・サークルに活用されているもののそれぞれの横のつながりが弱いという話があり、今は産業文化祭・町民祭に統合されてしまった「公民館まつり」を復活させることにより、団体同士の交流を深め公民館のにぎわいを取り戻す方向で事業を進めた。

公民館を利用している約30団体の代表者に連絡し、ほぼ全団体から参加の意向を取り付け、実行委員会を開催し、実行委員会主体の公民館まつり実施に向けて準備をした。

##### (1) 実施概要

###### ① 公民館まつり実施に向けた実行委員会の開催

協議会の決定を受け、普段山本公民館を利用している29の団体・サークルの代表と婦人会、読書ボランティア代表の合計31人に連絡を取り「公民館まつり」実現に向けて話し合いをした。なお、委員会に参加できない代表もいたため、毎回の議事録を作成し、次回の会議案内とともに郵送し、共通理解を図るよう努めた。会議の内容は以下の通りである。

###### ■ サークル・団体代表者打ち合わせ（第1回山本公民館まつり実行委員会）

※「公民館まつり」開催の同意を得て第1回実行委員会とした。

###### ○ チョコボラ・プロジェクト事業について（生涯学習センターから説明）

・チョコボラ・プロジェクト全体の説明

###### ○ 山本公民館チョコボラ・プロジェクトについて（三種町生涯学習課長から）

・公民館まつりのようなものを開催して、活気を取り戻したい。

・これを機会に、サークル・団体同士の横のつながり、小学生などとの交流を図りたい。

###### ○ 決定事項

・「山本公民館まつり」の実現に向け協力すること。

・発表には、多くのサークル・団体が短時間でも参加するようにする。

・展示も、新しいものを作らなくてよいので、あるものを使いなるべく多くのサークル・団体が参加する。

・あまり無理をせず、できることをやって今後につなげていきたい。

###### ■ 第2回山本公民館まつり実行委員会

###### ○ 参加サークル・団体の確認

・発表 17組(18団体) 展示 11団体 調理 3団体 その他(読み聞かせ)1団体

###### ○ サブテーマ “みんなが元気！心ふれあう公民館”

###### ○ 子どもとの交流、参加体験の実施

・森岳歌舞伎(森岳小3年生が学習発表会での発表を再演)

・大正琴演奏(森岳小4年生) ・地元保育園の作品展示 ・フラダンスの体験教室

###### ○ なるべく手作りで・・・無理をしない、できる範囲で、お金をかけない、できることは自分たちで

###### ■ 第3回山本公民館まつり実行委員会

###### ○ 当日の流れの確認

○ 公民館まつり終了後、次年度に向けての反省会を開催する。

## ②「山本公民館まつり」の開催

### ○ステージ発表 17団体

(公民館利用団体のほか、森岳小学校3年生による「森岳歌舞伎」、森岳小児童との大正琴合奏)

### ○作品展 12団体 (公民館利用団体のほか、地区内保育園園児)

### ○読み聞かせ…読み聞かせボランティアが、図書室で実施

### ○休憩コーナー…ステージ発表に参加しなかった団体を中心に、うどん200食の無料サービスや、持ち寄った漬け物等のサービスを行った。

## (2) 成果と課題・現状

今回のプロジェクトを実施するにあたってとても驚いたのは、実行委員の皆さんのやる気であった。事前準備の段階では、「公民館まつり」のステージ発表は2、3団体、展示も同程度と考えていた。ところが、実行委員会に提案すると、ほとんどの団体が発表・展示を希望し、発表・展示するものが無いサークルは、趣味の作品を展示したり調理の手伝いをしたりと何らかの形で参加したいと答えてくれた。また、館内の飾り付けなども、職員が声をかけ、ボランティアの皆さんの協力のできあがった。

このように、皆さんが意欲的・積極的だったのは、山本公民館が以前から団体・サークル活動を奨励してきたという背景もあるが、それ以上に、普段から職員と利用者が良好な関係を築けていたことにもあると思う。このようにサークル活動に意欲的な利用者は、山本公民館だけではなくこの公民館にもいるはずである。公民館の職員が、そのような人を見つけ出し、上手に(内容、タイミングとも)声をかけ、目標を提示することによって、新たな企画が生みだされるのではないだろうか。そのためにも、普段から利用者との良好な人間関係の形成が重要であると感じた。

今回の「山本公民館まつり」では、見学に来た人たちも和やかな笑顔であったが、それ以上に準備にあたった方々も満面の笑顔で活動していたのが印象的であった。

平成24年度も、「公民館まつり」を行いたいという声がサークル・団体からあがり、第1回以上に多くの利用者が参加し「第2回山本公民館まつり」が開催された。



森岳歌舞伎 (森岳小3年生)

森岳小学校3年生が、学習発表会で発表した「森岳歌舞伎」を再演した。予想以上のできばえに、集まった観客は感激し拍手を送っていた。また、森岳小学校4年生が必修クラブで習った大正琴を発表する場面もあり、普段少ない地域住民と小学生の交流が生まれ、会場はとても和やかな笑顔にあふれた。協議会委員でもある森岳小学校の校長先生は「子どもにとってもよい機会であった。今後も継続していきたい」と話していた。

## 5 北秋田市チョコボラ・プロジェクト（平成23年度）

北秋田市では、中央公民館は「知の循環型社会構築」に向けた事業を実施しているものの、他の公民館では職員数が少ないこともあり新規事業に向けて取り組むことは難しいという課題や、新設された秋田北鷹高等学校の生徒を公民館事業に活用していきたいという提案が出された。そこで、特に高校生の公民館事業への参加に焦点を当て事業を進めることとした。なお、このプロジェクトは他と異なり、市が企画していた事業への協力という形での実施となった。

### (1)実施概要

#### ①北秋田市チョコボラ・プロジェクト第1弾

「ふるさとの未来・再考！フォーラム」～内陸線の未来を見つめて～

##### ○内 容

- ・「走れ！内陸線 いつまでも」…内陸線の歴史や乗車率を上げるためのアイデア発表  
(大阿仁小学校の6年生)
- ・「アド街ック天国 阿仁」…阿仁地域の観光ポイントについて自分たちの視点からの発表  
(阿仁中学校2年生)
- ・「車窓から見える内陸線の未来」～トレイン・ミーティングの報告～ (秋田北鷹高校生徒会)
- ・「秋田内陸線を日本のモデルに」…研究発表 (鷹巣出身の秋田大学大学院生)



(大阿仁小学校の学習発表)



(秋田北鷹高校の研究発表)

#### ②北秋田市チョコボラ・プロジェクト第2弾

「生涯学習フェスタ まなぼう・あそぼう・つたえよう」

##### ○内 容

- ・公民館の講座受講者による、日頃の生涯学習の成果の展示とステージ発表
- ・チョコボラ紹介コーナーの設置

#### ③北秋田市チョコボラ・プロジェクト第3弾

「キャンドル作り」

##### ○内 容

- ・北鷹高校生徒と一般ボランティアによる、市内寺院から集めた使い古しろうそくを使っのエコキャンドル作り

#### ④北秋田市チョコボラ・プロジェクト第4弾

「手づくりホッとクリスマス」

##### ○内 容

- ・小学生のお菓子作り
- ・大きなクリスマスツリー、キャンドル300個の製作・設置（北鷹高校生徒）
- ・高校生のバンドの演奏や、浜辺の歌音楽館少年少女合唱団による賛美歌の合唱

#### ⑤北秋田市チョコボラ・プロジェクト第5弾

「高校生に学ぶ-地域・元気力・UP！研修会」～地域の元気を公民館から！～

##### ○内 容

<午前部>

- ・書道パフォーマンス『Rising Sun - 日進月歩』（能代北高校書道部）
- ・書道パフォーマンス『東北&秋田を元気に！！』（秋田北鷹高校書道部）
- ・実践発表『地域と共生する学校づくりを目指して～エコ活動・地域活動を体験して～』  
…被災地でのボランティア活動やエコ活動の取組についての発表（十和田高校家庭クラブ）

<午後の部>

- ・演習『高校生の力で地域も公民館も元気モリモリー-高校生と公民館によるコラボの可能性』

講師：弘前大学生涯学習教育研究センター講師 深作拓郎氏



（能代北高の書道パフォーマンス）



（高校生との意見交換）

## (2) 成果と課題・現状

北秋田市のプロジェクトでは、地元高校生とともに取り組むイベントを4回開催することができた。第3弾の「キャンドル作り」では、北鷹高校生徒会の呼びかけにより、高校生と一般ボランティアが延べ110人参加し一緒にキャンドル作りを行った。参加した高校生のボランティアは、みな意欲が旺盛で関係者を驚かせた。また、一般の人たちも普段あまりない若い世代との交流に喜んでいて、最初のつながりをもつことが難しいかもしれないが、高校生を活動に参加させることは、高校生にとっても、受け入れる一般の人たちにとっても有意義なものになると感じた。

北秋田市では、このプロジェクトをきっかけに、職員がいろいろな場面で「チョコボラ」の言葉を積極的に使い、利用者などに協力を呼びかけるようになった。平成24年度も、『「チョコボラ」やって！』と声をかけて、手伝ってくれる人たちとともに、「生涯学習フェスティバル」を開催しており、公民館への協力を促す合い言葉として「チョコボラ」が定着しつつあるように感じた。

## 6 由利本荘市チョコボラ・プロジェクト（平成23年度）

由利本荘市では、合併前旧本荘市で盛んに行われていた公民館主事会議が、合併後停滞気味であることから、公民館主事会議を活性化し、公民館職員の資質向上を目標にプロジェクトを進めることとした。

4回の研修会を開催し、公民館や社会教育の基礎的な内容を学ぶとともに、この研修を生かして実際に行う事業の計画を立てる演習も行うこととした。

### (1)実施概要 ～由利本荘市チョコボラ・プロジェクト研修会

#### ①研修会Ⅰ 「今さらだけど聞いとう！ 公民館の基礎の基礎」

〔講話〕「公民館誕生の背景 ～敗戦と民主主義～」

県生涯学習センター 所長 武藤 四郎

〔演習〕「検証！公民館業務の実際」

県生涯学習センター 社会教育主事 高木 寛

#### ②研修会Ⅱ 「みんなで考えよう！ 公民館にできること」

〔講義〕「これからの公民館について考える」

秋田大学教育文化学部 准教授 原 義彦氏



(研修会の様子)

#### ③研修会Ⅲ 「地域とともに！ 公民館のめざす道」

〔講話〕「地域と学校と公民館のかかわり方を考える」

仙北市立中川小学校 校長 沢屋 隆世氏

〔演習・協議〕「地域と学校と公民館のかかわり方を考える」

県教育庁中央教育事務所由利出張所 社会教育主事 鈴木 智王氏

#### ④研修会Ⅳ 「いざ、実践！ 公民館事業実践計画」

〔演習〕「研修を生かした事業計画を立てよう」

秋田大学教育文化学部 准教授 原 義彦氏

○事業計画案(研修会の中で立案されたもの)

・「ウィンターアカデミーin〇〇」

…学校・公民館別々に行っている書き初め大会を共催、地域の方や高校生等を交えて交流する。

- ・「親子でカダーレ～子育てサポートくらぶ～」  
…新文化施設を会場に、地域の子育てサークルや団体・関係者等を活用し、4回シリーズで家庭教育について考える。
- ・「由利本荘市地域自慢コンテスト」  
…児童生徒にゆるキャラや料理自慢等を考案してもらい、全小中学校に設置しているテレビ会議システムを活用して交流する。

## (2) 成果と課題・現状

公民館主事会議のにぎわい復活を掲げてスタートした由利本荘市のプロジェクトは、公民館主事の積極的な姿勢により充実した研修とすることができた。当初は、研修を生かして年度内に事業を立ち上げられればという思いもあったが、時間的な制約もあり、新年度に向けた具体的計画の作成に切り替えた。年度内の研修成果にこだわって形だけでも事業を行う方法もあったが、無理をせずに新年度につなげたことは、今後につながりをもたせるという意味でも有効だったのではないだろうか。

「由利本荘市チョコボラ・プロジェクト」は、実際に活躍する公民館主事らの主体性が何よりも重視されるべき内容であったが、若干、当センターと市生涯学習課が主導する場面があったことも否めない。4回の研修の流れの中で、毎回全員が参加できるわけではないことを考慮すれば、1回ごとの研修内容をまとめて周知することや、所属公民館への伝達を確認することなど、反省すべき点も多く見つかった。ただ、最後の協議会で共通理解が不足している点を包み隠さず話し合えたことは、今後の展開を考えたときに前向きに評価できるものと考えている。